

農業の担い手を育てる あぶくま農学校



角田市農業振興公社は、本年四月に農業後継者を育てるための自立農業塾「あぶくま農学校」を立ち上げます。若い農業後継者やこれから農業に取り組みたいと考えている人たちに、米や野菜の栽培技術や農業経営の方法などを教え、地域産業の農業を盛んにすることがねらいです。

「あぶくま農学校」の設立は、意欲ある農業後継者を地域ぐるみで育てる体制を作るのが大きな目的であります。米や畜産、果物、花など栽培にあたっては市内の農家の人々が講師を務めます。コースは、「風の塾」と「土の塾」の二つです。

「風の塾」は、市内若しくは県南地方で現在農業に取り組んでいて「農業に限らず視野を広げる」「新たな農産物の栽培にも手を広げたい」等を考えている四十歳未満の人を対象とします。一期三年間として、塾生の自発的な研鑽と交流を行う定塾、国内外の元気な農業者を訪問し交流する武者修行、その成果を発表する卒塾フォーラムを開催する予定です。

「土の塾」は、脱サラするなどとして、将来農業に取り組もうと考える二十から四十五歳の人を対象にします。勤め先の休みを利用して実際に農作業を体験してもらうほか、希望すれば長期間農家での研修も検討していきます。

このほかには、地元の子ども達は勿論のこと都会の子ども達にも農作物を作る現場を体験してもらおう機会を積極的に設けたりする食農学習の里づくりを進めます。

また、パソコンの中でだれでも気軽に農作業を仮想体験できるホームページを開設したりします。

農家もネットワークでIT革命 —インターネット研修会を開催—

会員同士の情報交換にインターネットを使おうと1月24日、角田市役所大会議室でインターネット研修会を開きました。

研修会は、あぶくま農学校客員教授の佐々木久夫氏を講師に招き、インターネットの基礎知識やIT革命がもたらす生活の変化、利便性を学びました。参加者からの活発な意見交換のあと、設置されたパソコンを使いインターネットを体験しました。



ビデオを見ながら直売所学習会 —多角的な流通販売プロジェクトチーム—

自分で生産した農産物を地元の消費者に直売している会員が集まり、お互いの情報交換と売上げの向上を目指し、11月26日、JAみやぎ仙南総合営農センターを会場に直売所学習会を開きました。

学習会を開くにあたり、あぶくま農学校客員教授の渋谷先生から市内の直売所を事前に調査していただき、その時のビデオを見ながら、それぞれ直売所の講評とアドバイスを受けました。